
アイス

篠義

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイス

【Nコード】

N8440P

【作者名】

篠義

【あらすじ】

関西夫夫

関西弁で、字書きはできるのか？ で、はじまった、このお話。

意味がわからない言葉があれば、連絡ください。ははははは。

その光景を見ると、「ああ、そろそろ、本格的に春やなあー」と、俺は感じる。朝晩は、まだ肌寒いものがあるが、それでも日中の温度は、かなり高くなってきた。洗濯物も乾くのが早くなったし、生ごみを溜めると匂うようになってきた。

そして、こたつから両足をはみ出している同居人の姿。

俺の同居人は暑がりの寒がりなので、ゴールデンウィークまではこたつをしまうことはない。酷い年になると、梅雨頃まで出しっぱなしということもある。それというのも少し涼しい夜に、そのこたつが必要だ、と、言い張る同居人の所為である。

今年は暖冬だったが、それでもこたつにすっぽりと収まっていた同居人は、どうやら日中の暖かさに気づいたらしく、こたつから足を外へ放り出しているのだ。もちろん、靴下も脱いでいる。

「のんきに昼寝かいや？　俺が洗濯干してるうちゅーのにつつ。」

イヤミったらしく文句を吐いたが、起きる気配はない。実は、夕べ、ちよつとばかり無茶をしたので、同居人は腰がおかしくなったのだ。どうにか起き上がれるようになったものの、どうもぎくしゃくしておかしいと言うので、本日の家事全般を、俺が請け負った。

「やっぱ、ひねりで茶臼とかはあかんねなあ。」

しみじみと、昨日の所業を反省しつつ、となりに寝転んだ。さすがに、労働したのでこたつの中へ入るのは熱いから、外だ。

「・・・おまえなあー・・・年を考えてやれよ。アクロバット系はあかんて、俺、前にも言わへんかったか？」

寝ているとばかり思ったら、起きていたらしい。もそもそと、動いて、同居人の顔がこつちに向いた。眠そうな顔だ。

「言うてたかな。でも、ちょっとひねっただけやで？ おまえ、身体硬すぎるんちゃうか？ そのうち、面と向かってできひんようになるぞ。」

「そこまで硬ないわ。」

「湿布張り替えようか？ もう四時間くらい経ってる。」

「え？」

どうやら、完全に沈没していたらしい。居間の時計へ目をやって、「うわあー半日寝てたやんけ。」と、残念そうに呟いた。

「あ？ なんか用事あったんか？」

「いいや、ないねんけどな。せつかくの休日を寝倒すのは悲しいやないか。」

「て、動けへんくせに、どうすんねん？」

そう動けなくて沈没しているのである。寝倒す以外に、やることはない。ぐたぐたと喋りながら、湿布薬を張り替える。シャツをたくしあげて、乾いている湿布を外そうとしたら、「いやーん、おそわ

れるううーん」 と、鼻にかかった声で、同居人がしなをつくる。とても気色悪い光景だ。

「おそえるかいつつ、こんなへばってる死にかけ。」

「おまえが死にかけにしたんじゃないやっつ、ぼけっつ。」

「しゃーないやんけっつ。どつかのアホが、連日深夜残業なんかかましよるから、溜まっつつたんじゃっつ。」

「あーあー悪かったな。それやったら、どつかで抜くか、風呂で抜けっつ。俺で全部処理すんなっつ。」

「おまつつ、この年になつて、なんで風呂で抜かなあかんねんっつ。おまえが責任もって処理するのが筋っちゅもんやろっつ、なあ、俺の嫁っつ。」

暴言とも言える言い合いをしつつ、湿布を張り替える。別に、言いたいことは吐き出せばいいのだ。遠慮なんてするほうがおかしくなる。

「おおきに。とりあえず、お前が俺の旦那やねんから、この身体の回復に誠心誠意こめて世話してくれ。」

「はいはい、させてもらうで。アイスでも買ってきてきたるか？」

「ああ、ええなあ。もう、そんなん食べる季節なんやなあ。」

しみじみと、そう言つて、俺の嫁は、また目を閉じる。たぶん、一日、寝倒すだろう。今晚は、少し季節を先取りして、そうめんでも

出してやるつと、俺は立ち上がった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8440p/>

アイス

2011年1月8日22時05分発行